令和３年度　学校だより（No.５）　　令和３年９月１日

９月号　鳥が丘　横浜市立鳥が丘小学校

「WE　HAVE　WINGS」そして「レジリエンス」

校長　　松﨑　由里子

両手をのばそう　心の空に　飛んで　飛んでゆきたい
大空を　大空を　理想の翼をひろげて
胸いっぱい　ふくらんだ　憧れを抱いて
鳥が丘小学生　明日はばたく
横浜市立鳥が丘小学校校歌「翼」より

８月24日。史上初めて同一都市で２度目の開催となる東京パラリンピックが、国立競技場で観客を入れずに開会式を行い、開幕しました。開会式のコンセプトは「WE　HAVE　WINGS」。パラアスリートたちのパフォーマンスが見ている人たちにも「翼」があることに気づかせてくれるという設定。この開会式を自宅のテレビで視聴しているとき、大好きな鳥が丘小学校の校歌を思い出しました。

校長室に、おそらく作曲した先生の直筆であろう校歌の楽譜が飾ってあります。その表題には、「鳥が丘小学校校歌　『翼』」と書かれています。本校の校歌は、「翼」という題がつけられていることは知っていました。珍しいな、とは思っていたのですが、恥ずかしながら、これまで深く考えたことはなかったです。今回改めて、「翼」という題名を校歌に付けた作詞家　西村達郎先生、作曲家　磯部　俶先生の思いに心を馳せました。鳥小の子どもたち一人ひとりがもつ「翼」。こんな「翼」をもちたいという子どもの夢や憧れを受け止め、精いっぱい応援し、ともに「明日はばたく」子どもたちを育てていきたい…そんな思いが込められているのではないかと想像しています。

国際パラリンピック委員会のパーソンズ会長は、「勇気」「強い意志」「公平」「インスピレーション」の４つのパラリンピックの価値に加え、東京大会に「レジリエンス」を５つ目のテーマとして掲げたそうです。「レジリエンス」…この言葉は、昨年度の卒業式の中で、宇宙飛行士野口聡一さんの言葉を借りて、卒業生に私から送った言葉です。一部抜粋してお伝えします。

昨年11月、野口聡一さんを含む4人の宇宙飛行士を乗せ、スペースX社の民間宇宙船クルードラゴンが飛び立ちました。クルードラゴン宇宙船の名前は「レジリエンス」。野口飛行士は記者会見で「困難な状況から回復する力、強靭性を意味する」と説明しています。「2020年、世界中が新型コロナウィルス感染拡大で大変な状況にある。このような困難な状況の中でもお互いに協力し合って、元の状況に戻していく力(=レジリエンス)にならないか、というのが我々の想いです」と語っています。そして、野口飛行士は「多様性こそがレジリエンスに繋がる」と言っています。(中略)ここで大切になることは「人間関係構築力」、つまり、「異なる相手の考えを理解し、受容し、認める」こと。

９月１日から、緊急事態宣言下の分散登校が始まります。子どもとともに、タブレット端末を使った学習を試みるなど、新しいことにも挑戦していきます。「WE　HAVE　WINGS」そして「レジリエンス」。一人ひとり違う翼をもつ私たち。多様な考えを理解し、受容し、認めながら、協力し合って、乗り越えていきたいと思っています。